

淡路島アートフェスティバル2013

2013年10月5日～11月4日 瀬戸内国際芸術祭の秋季イベントに参加

■『アート山の森』展 神戸学院大学教授桑島紳二氏企画、構成による展示とパフォーマンスを開催しました。

・展示：淡路島在住のアーティスト、尾崎泰弘氏・藪田洋嗣氏の作品。

・パフォーマンス「森に潜る」：女優で舞踏家の稲継美保さんが10月19日夢舞台のしあわせの鐘の塔からアート山溪谷・美術館メインギャラリーを舞台に小雨降る中即興創作舞踏を披露して下さいました。



←縄文土器（作・尾崎さん）
大石画伯と藪田さん制作のオブジェ→
↓稲継美保さんのパフォーマンス



アートと遊ぶ会

毎週第3土曜日は主に絵画、木工などを中心に開いています。みなさま、気軽に参加してみましよう。

9月8日（土）は「布ぞうり作り」を湊布佐子講師が指導して開かれました。

2014年3月15日（土）は、春の草木染めを初心者中心に佐藤忠昭さんを囲んで開きます。

冬季休館日のお知らせ

2013年12月26日（木）～2014年2月28日（金）

2014年3月1日（土）よりオープンします。

是非、春のアート山をお楽しみください。



会員募集 NPO 法人淡路大磯アート山を創る会の応援をよろしくお願い致します。

| 区分 | 正会員会費（1口） | 賛助会費（1口） |
|------|-----------|----------|
| 団体会員 | 20,000円 | 10,000円 |
| 家族会員 | | 5,000円 |
| 個人会員 | 10,000円 | 3,000円 |

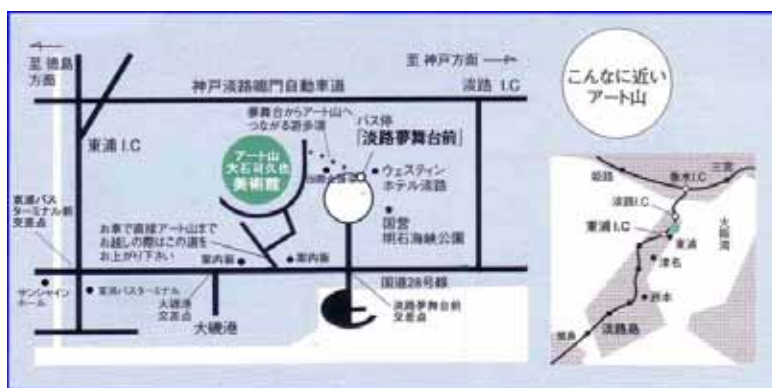
【振込先】郵便局00930-3-259879

NPO法人淡路大磯アート山を創る会

お知らせ メールアドレスをご連絡いただければ、アート山のイベントなど先行情報をメール配信で、ご案内いたします。

編集後記

2014年3月2日（日）は大石可久也画伯の90歳のお誕生日です。N&H



高速バス：（「淡路夢舞台前」下車。国際会議場を右折、チェーンゲートを通り遊歩道で約8分）

・新神戸駅、JR三宮バスターミナルから約50分（片道900円）

・JR舞子駅、高速バス乗り場「高速舞子」から約15分（片道500円）「淡路夢舞台前」下車。

お車の場合：（アート山大石可久也美術館にも駐車場有り）

・大阪、神戸方面から明石海峡大橋を渡り、「淡路I.C.」を下り、国道28号線を洲本方面、南へ約5分（淡路夢舞台前交差点より250m先の案内板を右に坂道を登る）。

・徳島方面から神戸淡路鳴門自動車道「東浦I.C.」を下り、東浦バスターミナル前交差点を左折し、国道28号線の岩屋方面へ約1km左の案内板手前の左側坂道を登る。（約200m）

アート山大磯

Vol. 30

題字 新井京一



特定非営利活動法人 淡路大磯アート山を創る会

〒656-2301 兵庫県淡路市楠本 2159 番地
Tel : 0799-74-5565 Fax : 0799-74-5596
URL : <http://www.eonet.ne.jp/~artyama>
e-mail : artyama@leto.eonet.ne.jp



2014年新年号



温海の港（あつみ/山形県）

1993年 油彩 112×162

山形の温海の温泉につかって帰ったことがなつかしく思います。

素晴らしいところだったことを思いなつかしく、何年にもなるが忘れられない絵になる港でした。今でも行ってみたいなあと思うところです。素晴らしいところです。

いまでもこの絵を自宅にかかげて楽しんでおります。

大石可久也

（この港は、海側には大きな橋が横切っている珍しい風景の中にあります。）

今回は大石画伯のエッセイ『アトリエからの眺め』の連載 2 回目です。このエッセイは「月刊タウン情報あわじ」に連載されたものを加筆編集したものです。

アトリエからの眺め ②



絵をかいていて、毎日かいていて、ちっともかけない時がある。すーっと出来上がる時もある。これはいい出来だと思っけていても、しばらくたつと駄目だなあと思う時もある。創作とか創造という仕事は、最初のねらいや発想の段階とはちょっと違ったものに完成することが普通である。趣味で絵をかいていた人が、六年くらい経って、「この頃だんだんむつかしゅうなつて、うまい具合にいかない。悩んでばかりいるんです。やっぱり才能が無いんだとつくづく思うわ」と云う。

そうか、目が進んだんだ。産みの苦しきという奴だ。でも僕でもすごく苦しむよ。「いやあ先生でも悩むんですか、もう悩むことなんか無いのと違いますか」と云うのである。「まあ苦しきながら、鼻歌まじりにやるこつちや。」という一般に写生という言葉がある。自然をそっくりに写しとるのが、上手い絵である。また、それが絵画芸術の本道であると思っけている人にとつて、絵が本物と違っけると、「これはおかしい、変だ」と思っけようである。

時代の流れで、自然をそっくりに写し取つた絵から、自分の心を切り取つたものが絵である、と云うようになつてきていふことである。いわゆる抽象絵画の出現である。この頃彫刻の裸婦像が町に建つようになつて、あれが肌色で口紅などつけていたら、ヘンな具合だ。生々しさが嫌味になることもある。虚と実という言葉がある。芸術は虚の世界である。虚であつて実にならなければいけない。北斎の富士にしても、波にしても、目に写る本物とは相当に違ふ。人間の目とカメラのレンズとは違ふのである。絵はどう見たらいいのかと聞く人がいた。「好きか嫌いかで見て下さい。」と云うと、それでいいんですかと不思議そうな顔でいう。「それ以外にありません。」と云うと、それで安心しましたという。私たちが美しいと意識する、美意識というには、正解というものはない。また、絶対というものもない。人それぞれに、感じ方も、考え方も、価値観も違ふのである。昨日これが絶対だと思っけていたことも、まてよこちらの方が良くなつたという様なことがよくある。こんなもんと思っけていたことも、年を経たらすごく価値あるものに見えてきた、ということもある。現代という時代は、一人一人の個性が尊重される時代である。そして美意識というものは、人によりまた時代により変化してゆくものである。また、見続けていくと変化進化するものである。私は作品を作りながら、主観と客観の合致を考へている。



第7回愉快的仲間たち展

2013年12月1日(日)～12月10日(火)

淡路夢舞台・国際会議場 2F 回廊ギャラリー
共催：株式会社 夢舞台(ウェスティンホテル淡路)

後援：淡路市、淡路市教育委員会

天候にも恵まれ盛況のうちに無事終了しました。



第10回アート山楽市楽座と演奏会

2013年11月4日(月・祝)

同時開催の11月3・4日は「関西文化の日」には、入場料無料もあつて、多数の来館者が訪れました。



大石可久也・鉦子展

9/8(日)～9/22(日) 10時開館・18時閉館
9/12(木)・9/16(月)・9/19(木) は休館

淡路市立サンシャインホール (Tel.0799-74-0250)
〒656-2305 兵庫県淡路市浦148-1

淡路市に目を凝らして25年、アート山楽市をつくり始めて10年になるふたりの作品を展覧します。今ではもう見ることができないフェリーの走る島、なつかしい町屋の並ぶたの地、朝日や夕陽が美しい自然の光、目を凝らして出会った人々や風景。また、東洋の小中学校和自然に写された作品もあつて、ぜひご覧ください。お待ちしております。

主催 淡路市立サンシャインホール

共催 サンシャインホール運営委員会・大石可久也アート山楽市楽座 後援 淡路市

大石可久也・鉦子展

「つくることは、生きるよろこび」

2013年9月8日～9月22日

淡路市東浦、サンシャインホール・メインギャラリーで、「ゴメとカラスと」(学習小)、「ホロフンベの港」(浦小)、「根釧湿原」(釜口小)などの大作60点を展示しました。

